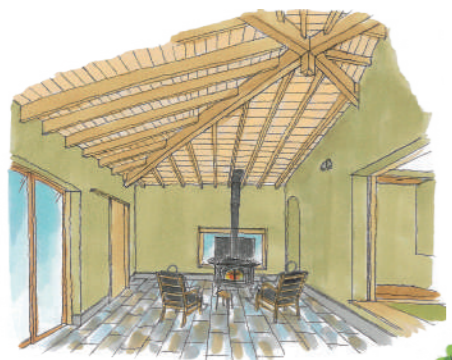




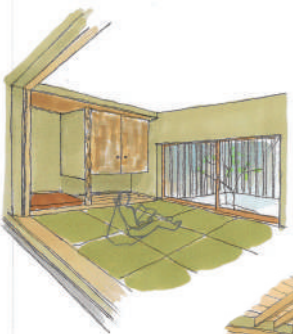
丹波は森と水のふるさと。  
丹波地方は雨が多く、平成二十六年には豪雨災害に見舞われた。しかし、雨によって丹波に豊かな森があることを忘れてはいけない。  
『森の舟』は地産地消の精神に則り、丹波の森から採れた木材で建てた。庭には、土砂災害で流れ出た丹波石を使用している。  
それによって、「丹波の森と共存していこう」というメッセージをこめた。

# 森 MORi の no 舟 FUNe





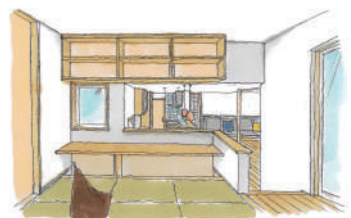
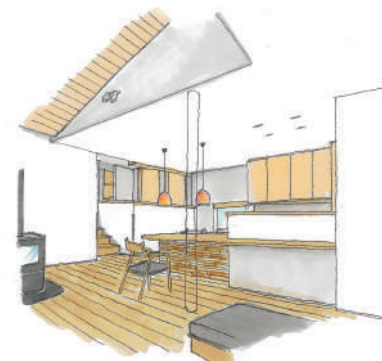
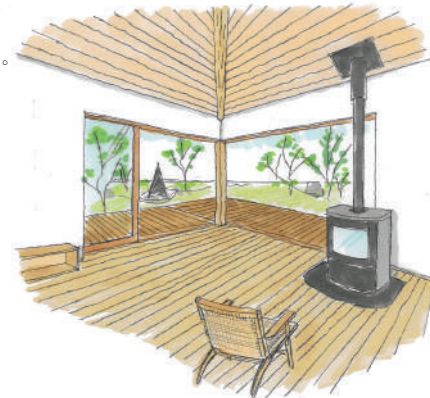
離れが土間であるのは、農作業帰りの隣人らが、長靴を脱がずに茶や麦酒を愉しむためだ。離れは、特に気軽さを重視した。



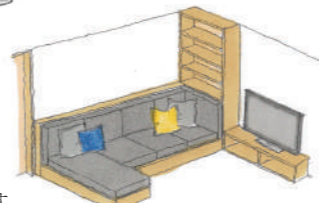
3つの方形の建物で構成した。床高は敷地の高低差に合わせて、庭からのアプローチも三様となった。



南の隅を掻き取ったような大開口部。山下ろしの風が緑の匂いを運んでくる。



高さ80cmのスキップフロアーが醸し出す空間の変化。リビングはよりオープンに。畳スペースはよりプライベートに。



雁行した間取りがいくつもの「居場所」を作り出す。リビングのソファ、畳スペースのスタディコーナーの造作も一役を担う。



# 暮らしを灯す

## 3つの理

### 【權を握る】

暮らすことは、流されてゆくことではない。自ら  
の手で權を握り、ひとかきひとかき水面を切り、  
日々を漕ぎ渡ってゆくことである。  
山あいに佇む「森の舟」での暮らしは、一見する  
と不自由かもしれない。けれど、不自由だからこ  
そ得られる自由がある。庭で火を焚き語り合う、  
大地に寝そべり星空を眺める。日の光で時刻を知  
り、風において季節を悟る。そんな五感を研ぎ  
澄ます暮らしが、心と体を解放する。

### 【つながり】

心地いい住まいとは、外の世界を遮断するもので  
はなく、内と外をつなぐものである。  
「森の舟」では、このつながりを重視した。例えば  
リビングの大開口とそこから広がるウッドデッキ  
が、内と外の間架け橋になる。バランスよく配  
置した窓は、外の風を内に呼び込む。庭には、周  
辺の自然と調和するよう、丹波に自生する樹木を  
中心に植えた。丁寧につないだ内と外との関係が、  
人と自然の垣根を払い健やかな暮らしを実現する。

### 【ひと手間の労】

日常生活をいかに快適にするか。毎日のことだけ  
に、とても大切な視点である。ただし、「快適＝効率」  
とは限らない。  
「森の舟」で考える快適とは、ひと手間の労がくれ  
る小さな喜びを指す。春の朝、摘みたてのベリー  
で自家製ジャムをこしらえる。夏の昼下がり、刈  
りたての草のにおいをかぎながら窓辺で涼む。秋  
の夕暮れ、虫の声をBGMに愛書を紐解く。冬の夜、  
薪ストーブの火でコトコト煮込んだ料理を家族で  
囲む。こうした暮らしの息吹が壁に床に染み込む  
ことで、住まいはふくよかになり、快適さを増し  
てゆく。

敷地面積：886.55 m<sup>2</sup>  
建築面積：202.46 m<sup>2</sup>  
延床面積：168.87 m<sup>2</sup> 51坪  
(母屋：119.39 m<sup>2</sup> 離れ：49.48 m<sup>2</sup>)

構造：丹波市産 杉・檜を使用

外部仕上げ：屋根 = ガルバリウム鋼板  
外壁 = 間伐杉、無塗装サイディングリシン吹付

内部仕上げ：母屋  
天井 = 紙クロス貼り、一部杉板張り  
壁 = 漆喰、紙クロス貼り  
床 = 幅広ナラフローリング張り、  
一部杉フローリング張り

離れ  
天井 = 構造材現し  
壁 = 珪藻土塗り  
床 = スレート石張り